

外洋三浦安全セミナー

セッション1 ダブルハンド・シミュレーション

問1 レース前に艇として準備するもの、確認しておくことは？

COB（落水者 Crew Over Board）引き上げ用テークルの準備、直進させる工夫（舵の固定装置・ショックコード、延長ティラー）、ライフライン・ネット・ジャックスターなどの確認、ジャイブプリベンターの工夫、バウハッチ廻りをクリアーにする etc

問2 同、乗員として準備、確認しておくことは？

COB（落水）時の対応訓練、アドバイザーを乗せて行くと効果的。安全備品の収納場所確認、ライフジャケット膨張維持確認（DH レースの時はリジッドなライジヤケを着用）、個人用ストロボライト、ダイマーカー、個人用 GPS（Waypoint 登録）、防水携帯（履歴に海保、同乗者携帯番号、コミッティー番号を残す）、高カロリー食品（カロリーメイト、チョコレートなど）、国際 VHF の DSC（Digital Selective Calling）ボタンの確認。受信設定を 16ch、71ch デュアルワッチにしておく etc

問3 どんな場面でどんなセールを使用する、と想定していますか？

ライトスピン、MH ジェノア、ミディアムスピン、等々に加え N04 or Storm jib（スピンネットの代り）

問4 それらのセールはどのようにセットしておきますか？

ジブ・バテンはあらかじめ入れて置く、ジェノア：スタート前一度上げて降ろしてラッシング、スピン：バックから出しシートを付けた状態でバウハッチ下に広げて置く、スピンシートシャックルはベロクロ止め、使用しないと思われるセールは降ろす（船内をクリアーに保つ）、交換用ジブ・バックの巻き方（タックを内側にしたロール、ロールを解くとバウ方向にタックが向かうので、セールバックを引きずる距離が少ない）特に荒天が予想される時は予備ジブもデッキ上でラッシングして置く etc

問5 セールハンドリングはどのように行くと想定しますか？そのためにシートのセットで考えておくことはありますか？

早めに小さいセールに変えて行く、リーサイドワッチが大切（クルーのワッチ、ジブのシースルーウインドウ）、すべてのハリヤードはコクピット側で操作できるよう準備する、その上で、ハリヤード揚げ降ろしの担当と方法、ガイ・ポールリフトの担当と方法、ジブチェンジ（タックチェンジが基本）、メインリーフの方法と工夫（リーフ・タック引き込みがかぎ）などを決めて置く etc

問6 ハンドリング・トラブルはどんな事を想定しますか？（些細な事象から・・・）またその対処法は？

ハリヤードを飛ばす、スピンをステーに絡ませる、ワイルドタック、ワイルドジャイブ、シャックル外れ（ベロクロで防止できる）、シート同士が絡む・ブロックに噛む（ジブシートのエンドを端留から数十センチ余らせておきウインチなどで引き込むことができるようにする）、ジャイブする時は一旦スピンドウンし上げなおす、バウハッチ下から引き込むと安全確実にできる、ウエザーサイド降ろしが再度上げるとき楽、ジブが上がっていてもできる。

問7 艇が損傷するとすればどんな事を想定しますか？（些細な事象から・・・）、またその対処法は？

ブロックが飛ぶ（ワイルドジャイブ）：ジャイブプリベンターの装備（ショックを吸収することができればプリベンターは壊れても良い）、セール破損：早めのセール交換、レース艇同士の衝突（ブローチング、ポート・スタボー）・乗り上げ：見張りの徹底、他ポールが折れる、ウインチハンドルを落とすなど。

問8 乗員自身のトラブルはどんな事を想定しますか？（些細な事象から・・・）またその対処法は？

強い便意（紙オムツが有効しかも暖かい）、船酔い（酔い止め薬、防寒）、擦傷・切傷・打撲・出血・やけど・骨折：艇の救急セットで対応（ハイドロコロイド（湿式）絆創膏、止血や固定にベルクロテープが有効）ブームパンチによる脳震盪、心臓発作は救助要請。事象が起きたとき一人でスピンドウン、あるいはヒープツーフットをして救急マニュアルに応じた対応。

問9 落水事故が起こるとすれば、どんなケースを想定しますか？

ワッチ交代・ハッチの出入り（ハーネス脱衣時）、テザー脱着時、外でトイレ（必ず船内トイレの使用を徹底）、ワイルドジャイブ、ブローチング、ロールオーバー、ライフライン切断、
COB（落水：Crew Over Board）の場合はセッション2、3で検討

問10 事故が起こった時の救助要請はどのようにしますか？（些細な事象から・・・）

怪我などの場合、主催者に電話連絡、近い港に搬送、救急車を手配する、その場合入港予定時刻をなるべく正確に伝える。救急車要請が早すぎると救急側とトラブルになる。主催者が近い場合サポートボートで送ってもらう、サポートボートから補助クルーを提供してもらえると助かる。

意識がない、出血が多量という場合は、国際VHFのDSCボタンを押し緊急信号を発信、同時に16チャンネルで海保へ通報を行う。その場合携帯番号も伝えると良い。携帯より

の海上保安庁は 118、操船を続ける場合はハンディ機と携帯を所持しワッチする。

本セッションの纏め

- 何度もシミュレーションを行い、自艇にあった対処法を想定しておく
- できるだけシンプルに考える
- 必要な装備、工夫は事前に用意
- 省力優先（腕力を使わない）
- 時間をかけて確実に処理をする（あわてない、あせらせない）